

科目ナンバリング：DIB-2-431-12

商学部：「卒業認定・学位授与方針」で謳う「幅広い教養」を身につける為の科目

**■授業の目的及び到達目標**

法学は、商業高校における一部授業を除き、高校では本格的に勉強する機会はありません。本講義は、大学入学後、初めて接することになる「法学」の基礎について学習します。成人になった後、日本社会で様々なトラブルに巻き込まれないよう生きていくには、何よりも法知識を身につける必要があります。又、国際社会で活躍するためにも、法知識を身につけることは大きな意味があります。法学概論Ⅰでは、国際学部を設置している様々な法律科目の履修に向けた基礎力を養うと共に、公務員試験などを目指す学生諸君にとっても十分役立つ知識取得を目指します。

**■授業計画**

- 1 法律を学ぶ意義
  - 1、法律を学ぶ時期にある「成人」 2、法律とは何か 何が法には求められているのか 3、今、何故、法律を勉強する必要があるのか 成人とは何か
- 2 未成年者・成年者と法的地位の相違
  - 1、未成年者の優遇措置 具体的などのような「おまけ」があったのか 2、ラーメンの売買契約と親権者の同意 3、刑法、死刑、少年法、刑務所の様子 4、罪とは何か 何を償うのか
- 3 法の種類と日本法の特徴
  - 1、法律・判例・条約とは何か 2、政令・法令・省令とは何か；その調べ方について 3、制定者の違いと法的パワ어의違い 4、法律の種類と法的権威 5、法律の作られる具体的流れ
- 4 日本法の歴史と特徴
  - 1、日本法を学ぶ意義・歴史的展開から見た位置付け 2、明治以降の近代化と法典整備 3、国際人としての日本法を学習する意義 4、今から何を学ぶのか
- 5 成文法、判例法と第1回小テストの実施
  - 1、冒頭、第1回から第4回までの第1回小テストを実施し、理解度の確認、2、裁判所の構造 3、裁判官の役割 4、成文法との違い 5、判例の意味（殺人罪と傷害致死罪、交通事故など） 6、日本での法的権威（アメリカ判例法との比較検討）
- 6 判例法と条理の意味と第1回フィードバックの実施
  - 1、冒頭：第1回小テスト結果を踏まえ第1回から4回までのフィードバックとしての振り返り 2、傷害事件・時効 3、問題は成文法も判例も常時 裁判拒否の不可 4、学説・条理とは何か そこからのリスク回避は如何にするべきか 5、日本人の常識
- 7 婚約とは何か；条理の世界の法
  - 1、判例なく、条理学説も対立する事例として；婚約問題 2、婚約とは何を意味するか；将来の結婚を約束する合意 法的地位の形成 3、判例学説の状況；時効制度との関係から
- 8 婚姻を巡る法律問題
  - 1、家族法を支える法原則 憲法（両性の平等） 同和差別の今 幼児婚 焼かれる花嫁 国際的課題は何か 2、婚姻の実質的成立要件 形式的成立要件 婚姻の効果 3、夫婦同性、夫婦別姓とは何か そもそも名前とは何か 婚姻から見る憲法とは
- 9 子供の権利と第2回小テストの実施
  - 1、冒頭、第5回から第9回授業までの第2回小テスト実施、理解度の確認 2、子供は誰のものか 3、社会全体としての保護 4、児童虐待とその対策 5、諸外国の状況 6、児童保護のための社会システム
- 11 遺言書の法律問題と第2回フィードバックの実施
  - 1、冒頭：第2回小テストを踏まえ、第5回から第9回までのフィードバックとしての振り返りを実施 2、「いごん」と「ゆいごん」 3、遺言書の 作成方法 4、公証人とは何か 何故、利用価値があるのか 諸外国の権限確認制度
- 12 戸籍制度の検討
  - 1、戸籍謄本 戸籍抄本の読み方 2、日本の公証制度と諸外国の実情 3、その果たした役割と課題 4、今後の戸籍制度の状況 5、新しい展開
- 13 国籍と日本人
  - 1、日本国籍とは 国籍の果たす役割 2、国籍法の概要：生地主義と血統主義 3、重国籍者の増加、4、国際社会と国籍
- 14 相続の法律問題
  - 1、遺言書のない場合の処理 2、法定相続の意味と概要 3、処理の方法と算定方法 4、特別受益者 特別寄与者の意味と調整方法
- 15 学期試験及びフィードバックとしての解説法と後期に向けたステップ
  - 1、学期試験の実施 2、フィードバックとしての解説 3、法を学びつづけるための基礎的知識 4、公務員の仕事、政治家の仕事を考える

**■授業の方法**

何よりも、授業中に「講義内容」を覚えることを最大の目標に進めます。そのため必ず六法を持参してもらいます。板書の内容と六法を指示通りに確認し、その場で知識として定着させることを目指します。毎回の授業は真剣勝負のため、授業中の飲食・私語は当然のことながら、遅刻・途中入退室、居眠りも認めません。定期通りに開始しますので予鈴をもって直ちにスタンバイして下さい。光輝ある伝統に支えられた拓殖大学の学生として、礼節ある授業態度を常に求めています。

**■予習・復習**

本講義では、第一に復習を重視しますが、予習についても適宜指示し学習効果を高めるようにします。予習では、ブラックボードに貼った資料を読み出し出席するように求める等、事前に指示をしますので、必ず準備をして出席してください。授業中に得た法知識を自宅学習で復習し、復習して疑問に感じた点を、次回冒頭に設ける前回授業内容の質問時間で解消するようにします。その際に良好な質問であった場合には、評価に加えます。毎回授業に遅れることなく出席し、授業中に講義内容を理解し、自宅で復習するという学習サイクルを、早々に作り上げていただきたいと思えます。

**■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）**

レポート、予習報告等、宿題の評価点（10%）に加え、期末試験の成績（80%）と共に、小テストや口頭試問等を通して、学習内容がどの程度定着しているかのチェックを随時行い（10%）、総合評価します。定期試験のフィードバックは、ブラックボードや解説プリントの配布を通して行い、知識の定着化を図ります。授業の出席が前提となるため、「出席点」は一切加えません。

**■教科書・参考書**

- 1、末川博編集『法学入門（第6版補訂版）』（有斐閣 1500円）
- 2、井上正仁・山下友信編集代表『ポケット六法 令和2年度版』（有斐閣（およそ1852円））

注意：初学者に対する配慮から、真数も読み上げますので、上記指定の書物を必ず持参するようにして下さい。持参しない場合には授業参加を認めません。

**■関連する科目**

初めて学習する科目ですから特に前提知識を必要としません。「やる気と根気」が履修に際しての必須条件です。それさえあれば、必ず法学の面白さが理解できると確信しています。